



# 例会報告

高山西ロータリークラブ

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988  
大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 井辺 一章
- 幹事 塚 和信
- 会報委員長 田中 晶洋



## <会長の時間>

田中晶洋会報委員長の企画で、10 月から会報末尾に会員各位の座右の銘が掲載されています。では著名人の座右の銘は何だろうかという事で、本日は「心を揺さぶる 88 の名言」という雑誌記事からお話しさせていただきます。



『人の一生は 重荷を負うて 遠き道を行くがごとし 急ぐべからず 不自由をつねと思えば不足なし いかりは敵と思え』言わずと知れた徳川家康の養生訓ですが、これを座右の銘としているのが、世界的にも評価の高いマンガ家、手塚治虫です。あるマンガ本の中で登場人物がふと口ずさんだこの言葉が、少年時代の手塚治虫の目に留まったそうです。いわく「若者たちは、なぜかひどくあせって栄光を得ようとする。彼らにもあのマンガを読ませたい気がする」と、ついに自身の座右の銘になってしまった言葉を評したそうです。

## <出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	30 名	1 名	31 名	39 名	79.49%
本日	27 名	—	27 名	39 名	69.23%

## ガバナー挨拶

国際ロータリー  
第 2630 地区  
ガバナー  
剣田 廣喜 様



まずは先日の地区年次大会において、R I 会長代理 櫻井権司様の卓越したご指導、そしてコ・ホストクラ

ブとして会員全員登録および駐車場整理に貴クラブのご協力をいただき、無事終えることが出来ました事を御礼申し上げます。

今年度地区大会に先立ちまして地区決議会を開催しました。皆様ご存じの通り 2016 年の規程審議会では定款・細則の大きな変更案が採択され、中でも第 6 条として細則を定めれば 2 回の例会で良い、との規程変更がなされました。しかし今回の決議会に、私と地区情報委員会の共同で新たに第 3 号議案を上げさせていただき『最も出席するもの最も報いられる』を地区スローガンとする「日本の伝統として継承するロータリー文化を堅持する決議」を採択いただきました。次期会長の米澤さんにおかれましては、是非細則に盛り込んでいただければと思います。

さて、今回の地区大会が終わり挾土さんからお手紙を頂戴しました。また打ち上げの場において地区幹事として貴クラブより出向頂いていた小森さんから乾杯の挨拶を賜りましたが、その際「剣田豊市さん、溝際一男さんが天国で喜んでいらっしゃる」とのお言葉を頂きました。お二方から頂いた言葉から思う事は、貴クラブ創立四半世紀までの間、大変輝かしい時代だったのではないかと、という事です。

地区大会が終わってどれだけ安堵するか、と思っていました。が心情としては変わっておりません。我が 2630 地区は 3,000 人規模を有する全国でも 5~6 番目の大きな地区ですが、平均年齢は 68 歳程度と増強が激しく将来が見えない状況にあります。貴クラブにおかれましては近年若い会員の皆さんが増えています。が、若い方々にロータリーの魅力をいかに伝えるか、という事が大きな課題ではないでしょうか。ビスマルクは『愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』と言いましたが、シニアリーダーの皆様にご頑張りをお願いし、御礼の挨拶とさせていただきます。

## <幹事報告>

◎R I 会長より (地区大会時)

- ・クラブ創立 50 周年表彰

◎R I 日本事務局より

- ・11 月のロータリーレートについて  
1 ドル 102 円 (現行どおり)

◎ガバナー、地区年次大会実行委員長より

- ・地区大会ご参加の御礼、および地区大会ご協力の御礼

◎濃飛グループガバナー補佐 可児 RC 会長、IM 実行委員長より

- ・濃飛グループ インターシティ・ミーティングについての御礼

◎高山市スポーツ少年団より

- ・平成 28 年度高山市スポーツ少年団大会 (助成金贈呈式) ご臨席のお願い  
日時 12 月 4 日(日) 10:30~  
会場 飛騨高山ビックアリーナ

◎高山市青少年市民会議より

- ・「第 33 回家族スナップ写真展」「第 25 回家庭の日図画展」の作品募集並びに広報活動について  
募集期間 10 月 17 日(月)~11 月 15 日(火)  
作品受付 市役所生涯学習課および各支所地域振興課  
展覧会日時 12 月 9 日(金)から 11 日(日)まで  
展覧会場 高山市民文化会館 2-5、2-6 展示室  
巡回展示 12 月 13 日(月)から 1 月 29 日(日)まで  
丹生川・荘川・朝日の各支所にて

## <受贈誌>

台北市松年福祉會(玉蘭荘だより)



# 例会報告

## <本日のプログラム> 地区大会報告

井上 正

地区大会当日は、田中晶洋さん、住田さんと一緒に駅西駐車場の整備をさせて戴きました。その際に、駐車されるロータリアンの多くの方々から、「ご苦勞様です」「雨が降らなくてよかったですね」とお声かけくださいました。スローガン「わの心を文化に!! 飛騨高山で!!」とありましたが、逆に我々が各地のロータリアンの皆さんから「わ」「和む心」を戴く事が出来ました。

大会全体で感じたことはまさしく大人の、上質な雰囲気でした。そして、我々にこうしたことをお教えいただくのは、やはりシニア会員の皆様方であると感じました。



松川 英明

基調講演:2680地区PG久野薫氏『ロータリーかえりみて、あすを考える』

本来のロータリーは、緊張した例会の雰囲気の中で、職業生活での道徳を実践することであり、職業人の最も重要な倫理運動体である。これは「隣人愛」とも言える。

しかしながら、奉仕の心を難しい表現にしてしまっている。そういう意味において、最近のリーダーは変であり、ついていけない。なぜか?いつ頃からか?

職業奉仕の理念とロータリーの目的はどのように繋がっているのか?これはその生い立ちを理解する必要がある。奉仕の理想(「理念」今はこちら)をまず理解すること。

「決議23-34」にあるように、キーワードは「人生哲学」「職業奉仕の哲学」である。他者を思いやり、他者に奉仕する。まず他人のことを考える、ただこれだけ。それは超我の奉仕であるということ。「最も奉仕するものももっとも報われる」ここに繋がるのである。ロータリーは、要は利他の心を養い、献身的な奉仕活動を行うこととなる。ロータリーの目的は、意義ある奉仕の理念を推奨し育むことであり、奉仕の理念を意義ある事業に当てはめること(これが職業奉仕)。

しかし、今はスキルを利用して社会に貢献するという事になってしまっている。日本的には職業奉仕ではない。なぜこうなったのか?それは、世の中が変貌しているからであり、社会のために貢献しようとして外に向かっているからである。また、物財による奉仕形態が変わっており、まるでNPO法人のようである。倫理運動がなくなっている。

今は、物財提供だけ、お題目だけで効果が上がらない。それは、専門的スキルが要求されているから精神が無い。専門家を育てているだけである。さらに、奉仕の理念が無く心配である。ロータリーの目標の一つにとどまっていけない。繰り返すが、経済的支援が効わってしまっ(人道的にとどまっていけない)

やはり、職業奉仕だけに特化したら良いが、それなのに大きな仕事へ展開しようとしている。倫理奉仕なのかNPO法人化なのか?二つのパターンどちらを望むのか?どの生き方をするのか?今の日本に求められている。倫理を取り戻すことが期待されている。

これからどうしたら良いか? 財団なくして語れないのは事実であり、世界で良いことをしようというのがミッションであり、貧困を救済することである。今のR Iの狙いは人道的支援で財団の最

大の成果がポリオ撲滅である。

ロータリアンをやみくもに増やしてきたので、奉仕を追及できないし適当に寄付をすれば良いと思っている。R Iに何ら関心を持たなくなっている。「無関心」「無感動」「無責任」これが今の日本のロータリーである。

最後に、日本の精神は情緒の世界であり、グローバリゼーションで世界のマネをしようとしている。論理ではなく情緒が大切で、これを育成することが求められている。

どうしたら良いか? ロータリアン同士の自己研鑽に努め「最も出席するものが最も報われる」というまさに劔田ガバナーの地区目標を大いに評価する。

田中 晶洋

日曜日の本会議についての報告をいたします。全体の流れは、みなさんもらったプログラムの通りですが、国島市長の来賓祝辞、劔田ガバナー、櫻井国際R I会長代理のスピーチと白駒妃登美さんの講演について報告させていただきます。



いつもは聞いた端から忘れてしまうのですが、今回は報告の大役がありましたのでしっかりと聞いてまいりました。

国島市長によりますと「多分」という前置き付きではありましたが高山の祭り屋台が今年の11月末には世界遺産に認定されることでした。もしそうなれば今以上に観光都市飛騨高山が世界中に知れ渡って観光客でごった返すようになるのではないかと心配しております。

劔田ガバナーのスピーチでは、ライオンズクラブとロータリークラブの違いについて、100年前の紛争地での活動を例に挙げて話されました。「ライオンズクラブは戦争で傷ついた人たちの人道支援を積極的に行いました。それに対してロータリークラブは人道支援も大切だが戦争・紛争を少しでも少なくすることの方が大切である。そのためには国と国、民族と民族がお互いを理解しあうことが大切であると、そのためにはまず教育が大事である。教育を施すことによって国と国、民族と民族が理解をしあい少しでも争いが減るのではないか」という考えにロータリーは至ったわけです。そこがロータリーの原点であると思います。ロータリーの思想、哲学であると思います。」と劔田ガバナーはおっしゃいました。

櫻井R I会長代理のスピーチでは、今回で2回目というパワーポイントを使って話されました。ロータリーにはいくつかの転換期というか論争があってロータリーが次の方向性を見出してきた。ロータリーが1905年に生れた時は「相互扶助・親睦」ということで生まれたそうですが、それだけでは支持が得られないということで奉仕の理論がその中に持ち込まれました。その中で2年後の1907年には「相互扶助・親睦派」と「奉仕派」の二手に分かれてしまったようです。何年間か論争を経て、その解決策として「全米ロータリークラブ連合会」が出来たそうです。ポールハリスと何名かの人が「奉仕派」で全米ロータリー連合会の設立に動いていきました。これが後に国際ロータリーに代わっていったそうです。そこで出てきたのが、全米ロータリー連合会とその傘下に入るシカゴクラブのどちらがリードするかという問題が出てきたのですが、ここでクラブの独立性を認めるという条件付きで全米ロータリークラブ連合会と主張する「奉仕の理念」を認めるということになった。まさに今私たちクラブに自治権ありという言葉が頻繁に使われますが、このときに「クラブの自治権を保証する」ということが約束された。その他にもイギリスロータリークラブ連合会が出来たことや、I service & We serviceの話や決議23-34のお話などもされました。

最後に記念講演として白駒妃登美さんという博多の歴史のお話がありました。タイトルは「日本人力の凄さ」でした。印象的だっ

人類に奉仕するロータリー

# 例会報告

たのはシベリアで抑留された日本兵がウズベキスタンでナヴォイ劇場を建築したそうですが。1966年のタシュケント地震で7800棟の建物が倒壊したのにナヴォイ劇場は無傷だったという話でした。また江戸無血開城で西郷隆盛と勝海舟の間で尽力した山岡鉄舟が幼少期に飛騨高山で過ごしたというお話でした。こんな日本史の先生が居たら勉強も楽しいだろうなと感じました。以上で報告を終わります。

## 住田 泰典

地区大会の締めくくりの行事「大昼食会」の報告です。

メイン会場の高山市民文化会館から昼食会場のひだホテルプラザまでは徒歩移動でした。10月に開業したばかりのJR高山駅を通過して向かいました。普段は観光客の多い駅前周辺を数百人のロータリアンが一斉に移動する光景は壮観でした。

昼食会場はひだホテルプラザの3階の宴会場です。通常2カ所別々に利用する大きな宴会場をひとつにし、更にはエレベーターホールまでも会場の一部にして設営される盛況ぶりで、名実ともに大昼食会でした。私が会場に到着したときには、既に飲食が開始されていました。ピュッフェ形式の立食パーティでした。食事はロースト飛騨牛なども、とてもふんだんに用意されていました。テーブルで同席した方々と次年度の地区大会参加などについて会話が弾みました。立食形式の食事会でしたが、宴の途中飛騨の祝い歌「めでた」の唱和もあり、とても地域色豊かな宴が進行していました。大昼食会はロータリアン同士の交流が盛んに行われ大いに親交を深めることが出来ました。



## <ニコニコボックス>

●国際ロータリー第2630地区ガバナー 高山中央RC 剣田 廣喜 様  
地区大会でのご協力誠にありがとうございます。本日はよろしくお祈りします。

●井辺 一章さん、鴻野 幸泰さん

22・23日の国際ロータリー第2630地区大会、剣田ガバナーにおかれましては大会の成功、誠にありがとうございました。そしてクラブ会員の皆様方には大会にご参加いただきありがとうございます。また駐車場係の出役をしていただいた方々には寒い中大変お疲れ様でした。

●小森 丈一さん

- ・剣田ガバナーのご来訪を心から歓迎いたします。先日の地区大会の大成功おめでとうございます。
- ・22・23日の地区大会にはコ・スポンサークラブとしてご協力、お手伝いいただきありがとうございました。お陰様で成功裡に終えることが出来ました。地区幹事として御礼申し上げます。
- ・米山奨学金への寄付もご協力下さる様お願いいたします。今年度に入って3人様3万円のご協力を頂きました。あと36人様よろしくお祈りいたします。3人様どうもありがとうございました。

●挟土 貞吉さん

- ・剣田ガバナーのご来訪を心より歓迎します。この度はご苦勞様でした。
- ・今回の中央クラブによる地区年次大会、心のこもった立派な大会でした。特に講演内容が良くロータリーのあるべき姿、また人間の生き様等勉強できたと思います。欠席した皆さんは報告書をしっかり読み、己を磨き全員「わ」の心でこの西クラブを更なる発展させ、ガバナーを輩出できるように頑張りましょう。
- ・先日400人の「全飛少年剣道大会」で同居の孫娘2人が団体優勝で活躍、長男が個人優勝という嬉しい結果を残し、今夜爺婆約束のうな丼を食べに行く事になっており幸せ一杯です。

●阪下 六代さん

剣田廣喜ガバナーのご来会大歓迎申し上げます。地区大会を成功に導かれ大変お疲れ様でした。

●田近 毅さん、平 義孝さん、古橋 直彦さん、米澤 久二さん、  
垣内 秀文さん、向井 公規さん、杉山 和宏さん

22・23日の地区大会、大勢の参加者を迎え盛大に行われました。剣田ガバナー御成功おめでとうございます。そしてお疲れ様でした。本日のご来訪ありがとうございます。

●塚本 直人さん

地区大会では剣田ガバナーにお世話になりました。ありがとうございます。地区委員として貴重な体験をする事が出来た事に感謝申し上げます。本日は中山中文化発表会にPTA有志で合唱に参加する為早退します。

●平 義孝さん

家内の誕生日にとっても綺麗なお花を贈って頂きありがとうございます。|

●大村 貴之さん、長瀬 達三さん、田中 晶洋さん、松川 英明さん、  
下屋 勝比古さん、岡田 賛三さん

山形県天童市で開かれた第54回技能五輪全国大会の家具職種で飛騨産業の倉元拓也さん(22)が銀メダル、田立達也さん(21)が銅メダルに輝きました。「すごい!」の一言。おめでとうございます。



## 座右の銘

岡田 賛三



- 『いりかざん』 … 良い加減、バランス感覚
- 『口から出まかせ』 … 思った事を素直に話す本音で生きる
- 『いきあたりぱったり』 … 出合いを大切に
- 『その日暮らし』 … 今日一日を精一杯生きる

こんな生き方が出来たら良いなと思っています。しかし難しいです。